
たいせつなひと

しらすぼし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

たいせつなひと

【コード】

N0862E

【作者名】

しらすぼし

【あらすじ】

いつもの教室、いつもの休み時間。目の前に土下座したあなたが居なければ。

私はただへらへらと笑ってる。誰も、気づかない。

ここは教室。私の目の前には彼氏が居て、注目を浴びる中私に土下座をしてきた。ほかに好きな女が出来たから別れてほしい、とのこと。しかし本当に土下座すらもさまになる見目麗しい男だ。誠実でまっすぐで今も、誠心誠意謝ってくる。しかし断る際は与えてくれなかった。ここでは許がることを許してくれない。何より、周りが。彼の隣には目に涙をためて彼を見つめる女が居る。どうすればいい？嗚呼、分かりきっている。

「うん、いいよ。仕方ないよ。ちゃんと、言ってくれてありがとう。それでは、さようなら。」

あの後すぐに教室を出て、何もかもを吹っ切るように走り続けて家に帰った。玄関を壊す勢いで開け、すぐに自分の部屋へこもる。下から母の怒声が聞こえてきたが、私は即布団に潜って耳をふさいで無視をした。涙は出さない、今はまだ。きつと、もうすぐだ。しつかりと耳をふさいだのにインターホンの音はしつかりと耳に飛び込んできた。

「全然かわいくなかったよ、さっき。潔けいせきすぎ。せめて、泣けばよかったのに。あれじゃ周りは君の敵じゃないにしても向こうの味方だよ。泣けば、周りはあるたの味方だったのに。損してるねー、ホント君は。」

「・・・人前で泣くなんて、冗談じゃない。それに、他人の同情なんて気色悪いだけ。」

私に嫌なことがあったときはいつも真っ先に私の前に現れるこいつは幼馴染。今はまだお昼前ですよ、サボりやろっ。

「ま、そりゃ分かるけどさ。嫌いなんだよ、お前の彼氏。おまえらの別れ方ほど、滑稽なもんはないよ。めっちゃ怖かった。あれはダメだ。絶対しちゃダメだ。」

「……うん。」

「うんじゃないだろう。傍から見て、あれは本当に滑稽だった。無責任で、お前に対する、お前を捨てることに対する覚悟がない。一人の感情を無碍むげにしたことに対しての責任をあいっは見事に逃れた。自分の気持ちだけ浄化して、別れを、自分が幸せになるためのステップとしか考えてない。俺はそんな別れの仕方、認めない。残された、お前はどうなる……。」

彼は誠実で、まっすぐで、素直だ。自分が思ったことを率直に実行する、だから私は好きになった。彼のことを悪く言うつもりはない。ただ、願えるならもう少し、残酷にきっぱりと振ってほしかった。ちがう。彼にそこまで期待してない。私は、

あなたに八つ当たりしたいわけじゃない。なのに口から言葉があふれてくる。止まらない

「どうにもならないでしょ！あの場で私ができしたのは2人の交際を円満に進めるための祝辞の言葉を言わされるがままに言うことのみ。すがれる？あんなに人が居るところで、目に涙をためて見守る新しい彼女の居る前で！泣ける？まるでセツティングされていたかのような、明らかに配役が決められてしまつて、脱線できないところに居る状況で。私、そんなに酷くなれないわ。」

「それにどうして・・・自分たちで結ばれない憐あわれな役を演じてたのよ・・・」

最後はただ、空気に吸い込まれてしまうほどの声あの二人への思いを、辺りに溶かすようにつぶやいていた。

少しでいいから大切に思つてほしかった

大切に思う上での別れ方だなんて言わせない

あれを

じゃ、あまりにも自分が惨めすぎる

あれ

結局のところ誰だって自分が一番だから、私は自分がひどく愛おしいから、せめてあの二人も傷つくような別れをしたかった。きっと自分だけが傷をこれからも残して、あの茶番は終了したことになった。それなのに恨みたくても、恨めない。

「おごじぶ。．．．耐えなくて。おごじぶ。」

あなたは優しい。私は自立できないと分かっているながらもそれでもその、ひだまりのように包みこんでくれる心地良さを求めていつも彼の胸に飛び込む。彼は強くなく、決して弱くもない強さで、私をゆっくりと抱きしめた。

「やっと幸せになれたね。もっと泣いてすがってくれるかと思っ
たけど、つまんなかったなー。へらへら笑ってさ。」

「そうだね。・・・いいじゃん、ちゃんと周りから祝福されたんだから。」

「あのこに対する軽蔑の視線がついてきたらもっと最高だったのになー。」

「めん、それでも僕はこの子が好きで・・・」

(後書き)

最後まで読んでいただきありがとうございます。もしよろしければ感想等よろしく願います。評価をいただけると飛び跳ねます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0862e/>

たいせつなひと

2010年10月9日23時13分発行